



「どうぶつ のうじょう たんけん」小1

9月22日(火)の午前中、小学部1年生が「動物農場体験」に出かけました。訪問した農場はブリュッセル南部方面にあり、高速道路を降りるとワートルローの大きな円錐(ライオンの丘)が見える、そこから10分ほどの場所にあります。

もちろんこれも大切な学習の一環です。子どもたちは、次のような「めあて」をもって体験に臨みました。

①どうぶつと なかよしに なってこよう。

②のうじょうの ひみつを みつけてこよう。

見学中、A組の先生はノートとペンを手に、農場の方の説明をこまめにメモしていました。きっとたくさんの「農場のヒミツ」を記録していたのでしょう。学校に戻ってから、楽しいクイズが出されるかもしれませんね。ちなみに、私も一つ「ヒミツ」を見つけました。それは「この広大な敷地はサッカーコート400面分もあるのに、働いているのはたったの4人だけ」ということです。1年生のみなさんも、素敵な「ヒミツ」をしっかりと見つけられましたか？

農場では、牛や馬(ポニー)、豚、羊、ヤギ、ウサギなど、たくさんの動物たちと触れ合うことができました。ポニーの背中にそっと手をあてた女の子が、「あたたかい!」と嬉しそうに教えてくれました。今回の体験を通して、動物たちのぬくもりを感じ、「生き物」や「命」の大切さについて、さらに思いを深めてくれることを願っています。



お知らせ

【保健室より】 お子さんの体調がすぐれない時はお家で休ませてください。高熱が出た場合はホームドクターに連絡して、登校しても良いかどうかを確認していただけると助かります。

「進路を考える会」 ⑥ サッカークラブ経営

9月17日(木)の7時間目、「進路を考える会」の第6回目を開催しました。今回は「サッカークラブ経営」という、サッカーが大好きな子どもたちにとっては憧れの職業(もちろん一番の人気は選手かもしれませんが)についての講演でした。講師の先生が経営に携わっているのは、ベルギーのアントワープを本拠地とする「K ベールスホット VA」という歴史あるチームです。



子どもの頃の先生は意外にも「野球少年」だったそうです。日本式の厳しい環境で培った野球の基礎が、後に渡米して出合った「ベースボール」の舞台で大いに開花。その時に味わった「スポーツは楽しい!」という純粋な感覚が、その後のスポーツビジネスへの道につながったとのことでした。講演の中で先生は、「海外での体験が人生の武器になる」と生徒たちに語りかけました。その具体的なメリットとして、①物おじしない「度胸」が身に付く、②生きたコミュニケーションが身に付く、③世界と日本の両方の視点をもてる、の3つを挙げられました。さらに、かつて日本代表を率いたイビチャ・オシム氏の言葉として「失敗を恐れずに、リスクを冒して挑戦しなさい!!」という熱いメッセージを教えていただきました。

講演後の生徒たちの感想からも、この言葉が強く心に残った様子がうかがえました。ある生徒は、「このオシム氏の言葉が特に印象に残りました。と同時に、先生の『もちろん何の準備もなしに挑戦するのではなく、しっかり準備をしてから』という言葉にもとても感心しました。この2つを聞いて私は、『挑戦したい、だからたくさん準備する。準備したのだからあと一步を恐れずに踏み出そう。』ということなのかなと思いました」と、深い気づきを綴ってくれました。

「幸運の女神には前髪しかない」という格言がありますが、チャンスをつかむためには日頃からの準備を怠らず、「ここぞ!」という時に一步を踏み出すことの大切さを、生徒たちはこの講演会から学んだようです。貴重なお話を届けてくださった講師の先生に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



全校朝会で伝えたこと (9/23)

9月23日(水)の朝の時間に、全校朝会を行いました。

初めに、転出児童生徒と転入児童生徒の紹介を行いました。一人ひとりがクラスと名前、そして転出先や前の学校をしっかりと発表してくれました。別れはやはり寂しいものですが、新しい仲間を迎える嬉しさもあります。転出する皆さんも、新しい環境で JSB で培った「力」を大いに発揮して、元気に頑張ってください。

「校長先生のお話」では、ベルギーの全国大会で個人2位、団体1位という輝かしい成績を収めた児童を紹介しました。全校児童生徒からの大きな拍手で祝福されましたが、他の皆さんも「これに続け!」と、それぞれの目標に向かって励んでほしいと思います。「学校だより第25号」でもお伝えした通り、素晴らしい成果や活躍があった方はぜひお知らせください。今回のような機会に、進んで紹介していきたいと思います。



その後は、子どもたちに「頑張れるコツ」として、「誰かのために頑張る時には、自分の限界を超えられる」という話をしました。「炭治郎は誰のために頑張っているの?」と問いかけると、多くの子どもたちが「ねずこ!」と答えてくれ、低学年の児童にもしっかりとメッセージが伝わったようで安心いたしました。

